

東京ミッドタウンのデザインの祭典

「TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE 2026」を開催！

～テーマは「みつめる」。DESIGN LIVE EXHIBITION に参加する全 19 組のクリエイターが決定～

東京ミッドタウン（港区赤坂 / 事業者代表 三井不動産株式会社）はデザインと触れ合う秋の祭典「TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE 2026（東京ミッドタウン デザインライブ / 以下 DESIGN LIVE 2026）」を 10 月 16 日（金）から 11 月 4 日（水）まで開催いたします。

DESIGN LIVE 2026 は、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏をクリエイティブディレクターに迎え、「あたりまえの日常が、おもしろくなるデザインイベント。」をスローガンに、多彩なプログラムを通じて日常に潜むデザインの魅力や価値を再発見するデザインの祭典です。メインコンテンツは、国内外で活躍するクリエイターの作品が集結する本格的なデザイン作品の展示「DESIGN LIVE EXHIBITION」。キュレーターにはデザインジャーナリストの土田貴宏氏を迎え、今年は全 19 組のクリエイターの参加が決定し、様々な作品が東京ミッドタウンの館内外を彩ります。



▲昨年の様子

あたりまえの日常がおもしろくなる、
東京ミッドタウンのデザインの祭典

TOKYO MIDTOWN
**DESIGN
LIVE**

2026年10月16日（金）－11月4日（水）

東京ミッドタウンでは、デザインを「何かと何かのあいだを、適切につなぐもの」と捉え、プロダクトやグラフィックはもちろん、暮らしや文化をかたちづくるあらゆるものの中にデザインが存在すると考えています。本イベントでは、デザイン作品の展示をはじめ、音楽、食、本など、来場者にとって身近な視点からデザインに触れ、その魅力を発見できる機会を提供します。

2回目の開催となる今年のテーマは、「みつめる」。膨大な情報やイメージが絶えず行き交う現代において、じっくりと何かを「みつめる」時間や体験を通じて、新たな思考や創造に出会うきっかけを提案します。

東京ミッドタウンのオープンスペースならではの、作品との自由な距離感のなかで、近づいたり離れたったり、ときには触れたりしながら、さまざまな角度からデザインを「みつめる」体験をお楽しみいただけます。秋の心地よい空気に包まれた東京ミッドタウンで、デザインを巡る散策のひとつをお過ごしください。

▼「TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE 2026」屋外展示コンテンツ



「世界のふるまいをみつめる」
veig + 本多沙映



「ForestBank | Made in TOKYO MIDTOWN」
狩野佑真



「関係のレッスン - Dialogue with Trees -」
TAKT PROJECT

■情報掲載時 一般の方のお問い合わせ先■

東京ミッドタウン・コールセンター

TEL: 03-3475-3100

東京ミッドタウン オフィシャルサイト

www.tokyo-midtown.com

DESIGN LIVE EXHIBITION



本多沙映「Parallel Paradise」(2023) 植物園に人工植物を展示し、自然と人工の境界を問いかけた。

「世界のふるまいをみつめる」 veig + 本多沙映

私たちが風景を見つめる時、植物の生え方や動物の往来など、そこに含まれるいくつもの手がかりから自然の営みを読み取って、世界を認識しています。たとえそれが人工的な造花の擬態だとしても。この作品は、そんな風景のなかにひそませた差異に目を凝らすことで、世界の理解の仕方を見つめ直し、身近な関係性や変化に気づかせてくれます。



本多沙映

独自の観察眼と実践的なリサーチからモノや素材の背景にある物語を掘り上げ、新しい価値を形にするデザイナー/アーティスト。



veig

(左: 西尾耀輔、右: 片野晃輔) 生態系の境界で起きている様々な事象から着想を得ながら探索性や鑑賞性など多様な見方を動的に取り入れるユニット。



▲イメージ

※本作品の一部は、イベント終了後、東京ミッドタウンの施設内で活用される予定です。

「ForestBank | Made in TOKYO MIDTOWN」 狩野佑真

廃棄されることの多い枝葉を水性アクリル樹脂とともに固めた独自の素材「ForestBank」。東京ミッドタウンの敷地の剪定枝も使用したこの素材の表情と、丸太の存在感を見比べることで、木というもののポテンシャルを再発見させる作品です。森と都市に共存する木々について視点を広げ、身のまわりの自然に新たな価値を見出すきっかけになります。



狩野佑真

NOU Inc.代表。プロダクトデザインを基軸に、あらゆる素材に潜む可能性を探求し、実験を重ねながら新たな価値と世界の見え方をデザインする。



▲イメージ

「関係のレッスン - Dialogue with Trees -」 TAKT PROJECT

人間の目的や計画から少し離れ、環境との対話から生まれるもののづくりを探るインスタレーションです。東京ミッドタウンに息づく植物を見つめ、3D スキャンによる視点も重ねて、手を加えなくなる衝動を3D プリンターなどで具現化。敷地をさまようような感覚を共有し、場と対話する意識を喚起して、何気なく接していた環境を見つめ直す体験を目指します。



TAKT PROJECT

東京と仙台をベースに活動するデザインスタジオ。既存の枠組みを揺さぶる実験的な自主研究プロジェクトを行い、「別の可能性をつくる」多様なプロジェクトを具現化している。



▲イメージ

①「Spirale」 畠中美緒

シャンデリアのアームを吹きガラスでつくる伝統的な動作を用いて、職人たちとの協業によって制作されたガラス製のオブジェ。表面に映る人の姿や周囲の環境までも「みつめる」作品です。

②「Carré」 Akasaki & Vanhuyse

素材と木工技術、そして日常使いを探究したロースツール。座面を支える4本の脚が中央で交わっています。構造美を際立たせた形状と、木の断面がつくる天板のグラフィカルなパターンは、素材感や木工技術へと焦点を導きます。

③「Artificial and dried flowers that were arranged」

寺山紀彦

作品の材料は、本物の植物と、プラスチック製の植物。木々を等間隔で植えた森林にプラスチックのゴミがあると嫌な気分になりますが、自然物とプラスチックの規則的なコンポジションを「みつめる」体験には不思議な心地よさがあります。

④「杉の台」 河内尚子

伝統的な日本建築には家具がほとんどなく、家具の機能は室内の環境と一体になっていました。床柱や垂木に使われる北山杉と透明なアクリルを取り合わせて、何気なく過ごしている日常の空間を深く「みつめる」きっかけをつくります。

⑤「Ceiling」 James Kaoru Bury

多くの建物の天井に使われている石膏ボード。その製造工程で廃棄される素材を再利用し、鮮やかな色彩を与えて新たなプロダクトへと昇華します。見慣れたものをじっくりと「みつめる」ことで、意外な価値と美を発見する試みです。

⑥「Inscribed Time」 辰野しずか

均質で整った木材と、使いづらいとされる個性的な木材を並置。育った環境や時間の痕跡が木目に刻まれています。その個性や背景に目を向けることは、多様な生き方を考えるきっかけになります。カリモク家具とのリサーチ「Traces of Life」から生まれた作品。

その他、参加クリエイター一覧(五十音順)

DAISY BALLOON、ERINA CALDEIRA、HIROAKI KAWANAMI、NAO IWAMATSU、studio monoya、金森由晃、高山芳の、春江紗綾(tog)、横関亮太、横田純一郎

DESIGN LIVE EXHIBITION 概要

今年のデザインライブ エキシビションでは、19 組の国内外で活躍するクリエイターや新進気鋭作家が「みつめる」というテーマに基づいて参加します。素材を、生活を、社会を、人間をみつめることは、デザインの原点。それぞれの出展者の眼差しを追体験させるような、オリジナリティあふれる「みつめる」を反映した作品が、芝生広場とギャラリー館内に揃います。多彩な作品を通じて、みつめるという体験は心に刻まれ、暮らし全体へと広がっていきます。

※作品の詳細は10月公開予定のオフィシャルサイトをご確認ください。

開催期間: 10月16日(金)~11月4日(水)

時間: 芝生広場 11:00~19:00
ギャラリー B1 11:00~23:00
ギャラリー 1F 9:30~23:00

場所: 芝生広場、ギャラリー B1/1F

キュレーター: 土田貴宏

主催: 東京ミッドタウン

クリエイティブディレクター 佐藤 卓氏 コメント

今年の東京ミッドタウン DESIGN LIVE のテーマは、「みつめる」です。日々不必要な情報に誘惑され、なかなか落ち着ける時間が取りづらい現代社会ではありますが、そんな中、つい何かを見つめてしまう時が誰にでもあるでしょう。もしかするとその時間は、眠っていた好奇心のスイッチが入った大事な時間かもしれません。その時間を大切にしたい。そんな想いを込めて、今年の DESIGN LIVE は「みつめる」をテーマに、多くのクリエイターにご参加いただきます。そして昨年から使用している DESIGN LIVE のハートマークの色がブルーグリーンに変わりました。「みつめる」というテーマとこの色が掛け合わされて、今年のイベントを彩ります。



グラフィックデザイナー / 株式会社 TSDO 代表 / 21_21 DESIGN SIGHT 館長

東京藝術大学デザイン科卒業、同大学院修了。「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」のパッケージデザインをはじめ、ポスターなどのグラフィック、商品や施設のブランディング、企業の CI を中心に活動。NHK E テレ「デザインあ」「デザインあ neo」総合指導、21_21 DESIGN SIGHT ディレクター兼館長を務め、展覧会も多数企画・開催。京都芸術大学学長を務める。毎日デザイン賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章他受賞。

DESIGN LIVE EXHIBITION キュレーター 土田貴宏氏 コメント

「みつめる」は静かなニュアンスをもつ言葉ですが、デザイナーにとってはものをつくるために欠かせない、とても創造的で独創的な行為です。今回のエキシビションは、来場者と出展者が作品を通じてさまざまな視線を共有し、世界に対する視野を広げる機会になると思います。「みつめる」は、リアルな体験だからこそ意味があります。東京ミッドタウンという環境のなかで作品と直接向き合い、芝生広場に置かれた作品と間近に触れ合ううちに、日々の生活のもつ意味が少し変わって見えてくるのではないのでしょうか。



デザインジャーナリスト

会社員を経て 2001 年からフリーランスで活動。国内外での取材やリサーチをもとに専門誌などに寄稿している。コンテポラリーデザインを主なテーマとして、プロダクト、インテリア、日用品について書くことが多い。デザイン誌『Ilmm』（アイエルエムエム）でエディターを、東京藝術大学、専門学校桑沢デザイン研究所で非常勤講師を務める。21_21 DESIGN SIGHT 企画展「The Original」ディレクター（2023）。著書に『デザインの現在』（PRINT & BUILD）ほか。

「TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE 2026」開催概要

「あたりまえの日常がおもしろくなるデザインイベント。」をスローガンに、身近な暮らしの中にあるデザインの価値や面白さを再発見するイベントです。私たちはデザインを「何かと何かのあいだを、適切につなぐもの」と捉えています。人と人、人と社会、モノと空間など、日常のあらゆる関係性の中に存在するデザインに目を向けることで、新たな視点や気づきをもたらします。展示を中心に、空間や音楽、食、本など多様なコンテンツを通じて、日常を少し豊かに変えるデザイン体験を提供します。

【期 間】 10 月 16 日（金）～11 月 4 日（水）

【場 所】 東京ミッドタウン各所

【主 催】 東京ミッドタウン

※開催概要 <https://www.tokyo-midtown.com/jp/event/8117/>（8 月 19 日公開予定）

※イベントの詳細は 10 月公開予定のオフィシャルサイトをご確認ください

【その他様々な企画を開催予定】

会期中は、展示作品のほかにも、音楽ライブ「DESIGN LIVE MUSIC」（10 月 17 日・18 日開催）、ブックマルシェイベント「DESIGN LIVE MARKET by 読の市」（10 月 24 日・25 日開催）、トークイベント（10 月 24 日・25 日開催）など多彩なコンテンツを展開し、誰もが気軽にデザインに触れられる場をつくります。

詳細情報は 9 月にお知らせします。今後の展開に是非ご期待ください。

【デザインを発信し続ける街、東京ミッドタウン】

東京ミッドタウンは、開業以来「デザイン＆アート」を街の個性として掲げ、創造性や知的好奇心を育む文化発信拠点として歩んできました。その象徴として、21_21 DESIGN SIGHT や東京ミッドタウン・デザインハブを擁し、デザインの価値や可能性を発信するとともに、次代の才能やアイデアを育む場としての役割を担っています。こうした取り組みの一環として、2007 年から 2024 年まで 17 回にわたり「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」を開催し、多くの来街者にデザインとの出会いを提供してきました。そして 2025 年、その理念を受け継ぎながら、より日常との接点に着目した新しいデザインイベント「TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE」として再始動。街そのものを舞台に、デザインが持つ創造力や発見の楽しさを発信し続けることで、人とデザイン、人と人、街と社会をつなぐきっかけを創出しています。

※掲載写真は過去のイベントの様子及びイメージです。内容は変更になる場合がございます。

※掲載情報は予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※最新の営業情報はオフィシャルサイトをご確認ください。

三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】 ・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>
・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/
・「& EARTH for Nature」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/>

また、2025 年 4 月に、街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の 5 つを定めています。本リリースの取り組みは、「& EARTH for Nature」における重点課題の 1 つに貢献しています。



緑を守り育む